

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400294		
法人名	株式会社 建装		
事業所名	グループホーム さらさの家		
所在地	島根県出雲市東福町190-2		
自己評価作成日	平成25年1月15日	評価結果市町村受理日	平成25年3月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9-16		
訪問調査日	平成25年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りは田畑に囲まれ、のどかで静かな環境で過ごしやすい。敷地内には農園が隣接し地域の人との交流が図りやすい。また利用者も作物を育てたり、収穫する喜びが味わえる。施設の理念でもある「こちよく ゆったりと あなたらしく」を念頭に個々のペースで過ごしてもらえよう対応に努めている。地域の方がいつでも気軽に訪ねて来てもらえるような場所になれるよう、夏祭りや縁側喫茶など、地域の方に参加してもらえる行事を企画することにも力を入れていきたい。それらを通してもっと事業所の存在を地域の人に知ってもらい、地域から頼りにされる介護の相談窓口になれるような事業所を目指す。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園風景の中にあり、平坦で外部からは大変見晴の良い場所に立地している。前には小川が流れ視界が広く、敷地内の畑には農作物が育ち季節感を味わうことができる。開所から3年半が経過し、入所者も重度化してきており、認知症のみならず終末ケアの必要性も職員全員が感じている。チームワーク良くまとまり、個々のモチベーションも高く、自分たちで理念に沿った具体的な目標を作成するといった団結心も強いことから、幅広い内容の研修を積み重ねることで、よりレベルアップすることで自信に繋げていただきたい。地域の中での介護の相談窓口を目指している点からも、これまでの地道な働きかけに加え、推進会議の場により多くの方を招いたり、地域の方の為に企画を検討するなどして、地域に発信し続けることで、より深い結びつきができるよう大に期待したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に理念を貼り、月に1回の職員会議で唱和をし、常に意識できるようにしている。新規採用者には、その都度説明して共有している。理念に沿った具体的な目標を作り半年に1回反省している。	理念に基づいた具体的な目標を、職員全員で作成している。目につきやすい場所に掲示し常に意識するようにし、半年ごとに反省をすることで、職員間で共有できるようにしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のコミセンの行事の参加や交流館の使用、近所の理、美容院を使用している。今年度は地域の保育所の夏祭り、小学校の学習発表会への招待を受け参加した。又初めての試みとして縁側喫茶、収穫祭を開催し、地域交流を行った。	敷地内の畑を地域の人に無料で貸出し、収穫を一緒に楽しんだり交流を深めるよう働きかけている。保育所や小学校の行事への参加や、ボランティアの受け入れも積極的に行い、開かれた施設となるよう取り組みつつある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の敷地内にある農園に来られる方が、いつでも立ち寄り頂けるように声をかけたり、地域の独居の方を敬老会に招待した。地域向けの広報紙を発行し、認知症についての記事を掲載した。今後も掲載を続ける予定。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催し、職員が順番で参加している。生活の様子などを報告し、助言やアドバイスを頂き、サービスの向上に活かしている。今年度は屋外へ徘徊のある入居者についてご理解ご協力を求めたケースがあった。	地域や市の担当者や家族、職員も参加して同敷地内の小規模多機能施設と合同で開催されている。利用状況の説明や質問に答える等の意見交換が主になっている。	会議の場を利用して、認知症や介護保険等、興味を持てるような研修を開催したり施設をより理解してもらえようような取り組みを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において、運営に関する事や、ケースについて市やあんしん支援センターに相談しアドバイスを頂き、サービス向上に活かしている。今年度は生活保護受給者の入居者について、相談するケースがあった。	運営推進会議へは毎回参加があり、相談を持ちかけ助言をもらったりしている。市の主催の地域密着型サービス事業所の集まりにも参加し、他の事業所の実態を聞いたりして運営に役立てている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、身体拘束をしないように努めている。玄関の施錠は日中はせずには夜は訪問客が途絶える20時頃を目安に防犯のために施錠をする。今年度は屋外へ徘徊のある入居者がいたが、徘徊ではなく「散歩」と考え方をかえて、外と一緒に歩いた。	マニュアルを作成し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。拘束に関する理解を深めるために、外部研修への参加も行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年行われる地域の合同研修に参加している。施設内研修を行い、グループワークを行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に日常生活自立支援事業の契約を行ったケースがあり、市役所や社会福祉協議会の協力を得ながら制度の理解もできた。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を時間をかけて説明し、同意を得て契約を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の面会時の他、家族参加の行事、運営推進会議、ケアプラン作成の際の来所時に意見を聞く機会を設けている。また3ヶ月毎の介護相談員の訪問により、入居者が外部者へ意見を表せる機会がある。	家族へは利用者の毎月の様子を伝える際に意見を求めたり、面会時のなにげない会話からも気持ちをくみ取るようにしている。利用者からは普段の様子の中での気づきを意識するようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な経営者との会議や、職員会議、面談により、意見や提案を聴く機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	毎日のミーティングや職員会議の席でも、できるだけ意見が出るように促している。個人的な面接の場を作る等、意見が言える機会を増やすようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を適用し、年1回代表者と面談を行い、評価結果を給与に反映している。資格給などの制度も設け、職員のモチベーションアップを図るよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正規職員、非正規職員の分け隔て無く、職員の力量に合った研修の参加を勧め、自己研鑽に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会や部会の勉強会の参加を通じて情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申請時に本人の置かれている状況、入所理由等を把握するようにしている。面接は必ず本人とお会いし、安心して入所して頂けるような関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの段階で、面接し家族の思いやこれまでの経緯等をゆっくり聴き、信頼関係を築くよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みの段階で、アセスメントを通じてどのようなサービスや支援が必要かを見極め、他の在宅サービスなども視野に入れて必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族や本人から話を聞く等して、個々の生活歴や性格、人生観等を知るように努め、職員間で情報を共有している。又誇りやプライバシーを損ねないような声かけを行っている。利用者から教えて頂き、共に行えるよう取り組んでいる。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族に手紙や写真で様子を報告している。変わりがあればその都度電話で報告する。面会時にも様子を伝えたり、自室で一緒に過ごして頂いている。墓参りや自宅への外出、外泊をされている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の秋祭りやとんどさん、サロンへの参加、自宅や近所への散歩、墓参り、かかりつけ医への通院、行きつけでの外食等を通じて交流が続けられるようにしている。	かかりつけの美容院や病院、行きつけの店での食事、地域行事への参加など、今までの関係が途切れないように、できるだけ支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性が強い方が多く、人間関係が複雑であるが、気の合う人同士の席にしたり、視界に入らない席の工夫、居室や台所等を利用して過ごして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ入所された方の面会に行き、直ちに関係を切らないよう努めた。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で入浴、自室掃除時、訪室時等個別に関わる時間を持つようにし、思いを聞いたり、言葉や表情から真意を推し量っている。	アセスメントシートがより充実したものになるように、家族から聞きだしたり、日頃のなげない会話からも気づきを感じ、その都度記入するようにしている。新たな内容には日付をつけ書き加える形を取っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴やこれまでの暮らし方を「暮らしの情報シート」に記入し、把握している。家族面会時にこれまでの歴史を聞く機会を得ている。職員で情報の共有をしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムや行動、表情、利用者同士の会話や職員との会話から、現状の把握に努めている。気づきは昼のミーティング時に報告し、職員間で共有している。又日中の状況は日々のリーダーが各職員に伝達する。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日々の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。ケース会議やケアプランの評価、昼のミーティング等で職員の意見を聞くようにしている。	本人や家族から日頃情報収集した意見を基に、各部屋の担当者を中心に、他の職員やケアマネが加わり計画作成にあたっている。状態が変化した場合もその都度話合いの機会を持ち変更するようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化はケース記録に記入し、職員間で情報を共有し、勤務開始時に確認している。また個人記録を元に介護計画の見直し、評価を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診付き添いや個別の外出、自宅への帰省等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区のコミセン行事の参加や交流館の使用、近所の理、美容院を使用している。運営推進会議では、自治協会会長や民生委員に出席して頂き、地域資源の情報提供などしていただいている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医や希望の医療機関に通院や往診の依頼をしている。必要に応じて主治医に状態報告や相談に出向いている。	入所前のかかりつけ医を継続しており、多くの方が往診を受けており、緊急時にも連絡がとれるような体制があり、利用者家族双方の安心に繋がっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の小規模多機能ホームの看護師に報告、相談し連携している。医療ノートを作り、看護職と連携を図っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は見舞いに行き、状態観察をしたり、家族に様子を伺う等している。退院前はカンファレンスに参加し、サマリーを依頼し職員間で情報を共有し、退院後の生活に備えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りを希望しているケースがあり、家族、主治医、施設で話し合いを行った。又重度化したケースがあり、三者で話し合いを行った。利用者の状態に応じてその都度三者で相談していきたい。終末期の研修にも参加している。	利用者も重度化しており今後に於いても、終末ケアの必要性を強く感じている。以前のケースから話し合いの重要性も経験していることから、今後も要望に応じてその都度検討していくこととしている。	幅広い内容の研修を積み重ねることで、重度化や終末ケアに対応できるような取り組みを期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の緊急連絡先や主治医の連絡先を記載した一覧表を作成し、すぐに対応できるよう努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は年2回行い、市の消防署と地区の消防団との連携に努めている。その他の災害時の避難訓練を行うことが必要である。備蓄として、飲料水その他、アルファ米を確保している。	施設前の川は以前に1回氾濫したことがあるほか、災害は受けにくい場所にある。災害時の避難場所のチェックや定期的防火訓練の実施等、災害時の対応がとられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が利用者の人格を尊重できるように取り組んでいる。ミーティングや勉強会で意識向上を図り、日々の関わりの中で対応を徹底している。	職員全員で作成している、年度の目標の中にも取り上げて、常に意識して対応するよう心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室の掃除などでの訪室時や、入浴の際にゆっくり話を聞く機会を持つようにしている。利用者の思いや発言を記録に残し、日々のミーティングで話し合い、自己決定の実現に努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの体調やペースに合わせて対応している。買い物や散歩、外出、自宅への外出等希望に添うようにしている。夜間ホールで休まれるケースもある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んでもらうようにしている。正月には着物を着てもらった。散髪はなじみの美容室や、近所の理髪店を利用している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回入居者と献立を考え、昼食会を行っている。畑での収穫、おやつ作りや盛り付け、野菜切り等で力を発揮してもらっている。職員も一緒に食事を摂り、楽しい雰囲気での食事に努めている。月1回調理の会を行い意見交換している。	利用者が重度化しており、できることが少なくなりつつあるが、決められた昼食会ではできる範囲で関わられるように支援している。昼食時は職員が間に入り話をしながら雰囲気盛り上げている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食やおやつ以外に、入浴後や外出後等こまめに水分補給を勧めている。食事、水分表にて摂取量のチェックをしている。食べる量が少ない方には、好まれる物や個別の料理で対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々にあった歯ブラシを使い、声かけや見守り、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを調べ、トイレでの排泄を支援している。パットの種類は個別に対応している。利用者の日々変わる状態に応じて、その都度適切な支援が出来るよう話し合っている。	個々に合わせてパンツやパットの利用、ポータブルやおむつの利用があり、パターンを把握することでさりげない誘導を行い、不快にならないよう支援している。トイレ利用のためにも起立訓練を継続している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の把握に努め、水分摂取や繊維質の食事の提供等に心がけている。下剤に頼るだけでなく、ヨーグルトや牛乳の提供もしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望を確認し入浴して頂き、気分の乗らない時は翌日にする等して対応している。体調や精神状態が不安定で入浴できない時は、清拭や足浴で対応している。	入浴したい日、時間帯、湯の温度等できるだけ希望を聞き、対応できる範囲で実施している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中は活動的に過ごして頂き、一日の生活リズムを作り、夜間良眠できるようにしている。夕方足浴しているケースもある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により指導を受け理解に努めている。薬の説明書を服薬ファイルに綴っており、調べやすくしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅でしていた役割が続けられるよう、日常生活の中でできることとして、草とりや畑、洗濯物たたみ、掃除、食品や物品の買い物等個々の力を活かしてできるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて買い物や外出、自宅への外出、墓参り、外食、なじみの店への買い物等をしている。個別に家族と出かける方も多い。	季節の良い時や天気の良い日など、できるだけ外出の機会を設け、数人づつ車いすでも外出できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて、小額から自己管理出来る金額を管理し、外出時に使えるよう支援している。家族からの預かり金の方も、買い物等の支払いを本人にってもらう機会を持つようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度電話をかけたり、手紙を書いてもらうことを支援している。正月には家族宛に年賀状を書いてもらった。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所から調理の音やにおいが感じられるようにしている。利用者の作品や季節の花を飾り、ホールや居室から見えるよう花やグリーンカーテンを植えた。畑の野菜の収穫や梅干し作り、干し柿作り等季節感を取り入れるようにしている。	建物全体に木が多く使用されており、吹き抜けで明るく、広い空間に木の香りがし温かみを感じられる。随所に季節を感じられるように、花や作品が飾られている。エアコンやファンヒーターに加湿器を調節し、快適に過ごせるようにしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が洗濯物たたみなどする際に使えるようにホールの一部に畳を敷いている。冬はこたつを設置している。居室前の広場をくつろぎのスペースとし、レクリエーションや面会の場所に使っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち物は全て家から持ち込んでもらい、なじみの物や好みの物を用いて過ごされている。壁には写真や手作りの作品を掲示している。浴室や居室入口にはのれんを吊っている。	家庭で使用しておられた物の持ち込みを積極的に勧めている。ベッドや家具なども使いやすいように配置したり、写真など思い出の品で部屋づくりしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには表示や取っ手に色をつけて、一人でも行けるように工夫している。電気のスイッチにも表示をつけわかりやすくしている。転倒防止のため、居室は、家具の置き場を考えたりマットを利用している。		